

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600092		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 島		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町島中島287-1		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192600092-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192600092-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年1月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・揖斐川沿いの自然豊かな場所で、9人の利用者様が個々の生き方を楽しめような支援を目指し運営している。施設内はスペースを十分とり、面会室を1階と2階に設けたり、エレベーターを設置している。2階には、洗面所、トイレ付の個室が6部屋ある。ケアの面では、利用者様一人一人の思いを尊重し、ご家族と話し合いのもと一緒に安全、安心、心地よく過ごせるように支援している。また、自立度が高い方、認知症が進んだ方、寝たきりの方など様々な方が入居されており、皆様が必要な支援を受けられるように、日々努めている。終末期になられた方も、主治医、看護師と連携をして最期までその方らしく生活していただけるように対応している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自分が年老いた時、自分らしく、住み慣れた地域で自然を実感し、笑顔の絶えない、のんびりした生活ができるように支援をしている。建物はホテル感覚を取り入れ、豪華でゆとりある空間である。利用者は、恵まれた居住環境の中で、自分らしい生き方を楽しみ、また、事業所の畑で採れた野菜が、食卓を豊かにするなど、普段の生活が実感できるように取り組んでいる。居室には、洗面台やトイレが付いて、個々の尊厳やプライバシーが確保されている。利用者の残存機能を活かし、今の生活ができるだけ長く継続できるように、安心で安全な心地よい生活を支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに運営理念について研修を行い、理念の意味を深く考える機会を設けている。また、毎月の全体会議で理念に基づくケアができていっているかどうか、確認するように努めている。各自いつでも理念の確認ができるように、名札の裏に記している。	利用者権利の尊重・安全で信頼ある関係・地域医療・地域に密着した生活の継続等を理念としている。職員は、日々ケアの場で理念の意義を確認し合いながら実践している。また、職員会議の前段に読み上げて共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事や奉仕活動、公民館の福祉フェア等に利用者様と参加している。また、家族交流会に地域のボランティアチームに参加していただき交流をはかっている。	自治会に加入し、地域の行事やゴミ拾い等、奉仕活動に参加している。大正琴、舞踊等地域のボランティアも多数訪れ、中学生の職場体験も受け入れている。地域の店を利用し、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談をいつでも受け付けていることを区長や民生員の方にお知らせしている。また、運営推進会議で活動報告や認知症についての事例検討などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、高齢福祉課の職員、区長、民生委員、利用者様家族にご参加いただき、現状のケアを知っていただき、ご意見をもらっている。地域、行政の報告もいただき、広い視野でサービスの向上につなげている。	隔月に会議を開催している。運営報告や行事の提案に対し、意見交換をしている。委員からは、地域行事の情報と参加の提案や、近所の高齢者の実態を話し合ったり、行政職員と意見交換を行い、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の高齢福祉課の会議や研修に積極的に参加し、連携をとっている。また、ケアについての相談をしたり、現状を報告している。月1回、高齢福祉課主催のケア会議にも参加している。	困難事例を相談したり、情報をもらったり、日常的に連携をとっている。行政担当者は、ホームへよく訪問するので、実情を見てもらっている。行政主催の研修会等にも積極的に参加し、協力関係ができていっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を、外部の研修や全体会議で定期的に行い、理解を深めている。現在のところ、ケアを工夫して玄関や窓の施錠はしていないが、緊急やむを得ない場合は、利用者様またはご家族に説明し、ご理解をいただいている。	職員は、マニュアルに沿った研修で学び、言葉や心の拘束を含め、身体拘束ゼロを実践している。やむを得ない場合は、家族に説明し、短期間に留めるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を、外部の研修や全体会議で定期的に行い、理解を深めている。職員がお互いストレスがないかを気軽に話し合える雰囲気作りに努め、防止している。		

岐阜県 グループホーム めくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に積極的に参加して、職員全員で学ぶ機会を持っている。特に成年後見人制度は、必要と思われる場合にはご家族に活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、文章の読み合わせを時間をかけて行っている。理解、納得されているか確認をし、疑問点はいつでも連絡して下さるように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会を行い各担当職員と利用者様、ご家族が意見交換している。また、ケアプランの担当者会議に出席していただき、定期的に意見を伺っている。面会時には、職員が日頃感じている事をご家族から話の中で伺い、毎月の全体会議で報告している。	家族会の機会や、家族の訪問時に応接室で、ゆっくり意見を聴いている。家族から医療連携の要望や利用者の様子をアルバムにまとめるなどの提案がある。それらを全体会議で検討し、運営に反映している。	利用者の日常生活が、家族に理解されていないことがある。個々の職員が、家族の訪問時に、現状を分かりやすく説明し、要望等を引き出せる対話に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議には、施設長、管理者も出席し意見、相談、提案を聞いている。(各自意見書を出し、意見交換をしている)また、毎月各施設の管理者、主任、ケアマネージャが集まり、意見交換をして運営に反映させている。	毎月の全体会議で、日頃の気づきについて意見を交わしている。また、書式で提案等を提出する取り組みをしている。ケアの改善点、備品補強などの提案があり、全員で話し合い、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の、経験や性格、勤務時間の希望を考慮して、やりがいのあるポジショニングを考えている。また、子育て中や定年した職員も生き生きと働けるように、積極的に採用し勤務時間にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状維持に留まらないように、職員に実績と実力にあった研修を積極的に受けてもらっている。また、施設内でもスキルアップ研修を毎月設け、全員が知識を高められるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者やケアマネージャ、職員に外部の研修や会議、交流会に積極的に参加してもらい、同業者の意見を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にお会いして、現在の心身状態など事前に把握し、ご本人、ご家族が安心できる生活が始められるように努めている。また、他のサービス事業所からも、情報提供をしていただきスムーズに支援が始められるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設の見学やご家族の不安や悩み、要望をゆっくり聞けるように時間をとっている。気軽に話していただけるように、部屋の雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の心配ごとや不安、今後どのような生活を送りたいのか等をご本人、ご家族と話し合い、必要な支援をおおよそ確認している。また、他のサービスが必要な時は、事業所の紹介やサービスの内容を説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場となる施設の中で、利用者様一人一人に合った役割などをさせていただき、職員も人生の先輩として色々勉強させてもらっている。一方的な支援にならないように、気持ちを伺いながら活動に参加していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず担当職員がお話を伺い、相談しながら支援をするように努めている。また、近況報告を郵送し、施設での様子や行事報告などをお知らせしている。ご家族の目線での気づきを伺い、より良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族承諾のもと、近隣の友人や親類の方が面会にみえ、利用者様の自室または面談室にてゆっくり過ごされている。親しい方に年賀状や季節の折々にハガキなどを出されたりして関係を継続されている。	隣接する接骨院で、馴染みの人に会ったり、通院している友人がホームを訪問するなど、日常的に交流している。また、希望者で馴染みのスーパーや花屋に買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心地よいコミュニケーションができるよう、テーブル席や部屋の配置などを考え、利用者様同士が円滑に過ごせるようにしている。また、コミュニケーションが難しい方には職員が介入しながら、良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、いつでも相談を受け付けたり、訪問を歓迎している。また、家族会や行事などお手紙を添えた案内状をお送りして、近況を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にはご本人の要望をしっかり聞き、ご家族にも意向書を記入していただいている。日頃から利用者様との会話の中で、何を要望されているかを職員が気付き、全体会議で周知し、反映できるように努めている。	入居前の事前面接で意向を把握している。また、日頃の会話で思いを把握し、思いに寄り添っている。さらに、入浴介助などの暮らしの場面を通じ、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、主治医、関連機関の情報提供等をもとに、利用者様がその人らしい生活を送れるようアセスメントを作成して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを定期的に見直して、現状の把握に努めている。とくに、健康状態、食事、睡眠などは介護記録簿とは別に一覧表にして毎日記録し、職員が把握しやすいように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は必ずご本人、ご家族の意向を伺い、担当者会議を開催している。また、ご家族には事前に意向書を記入していただき要望や質問、今のお気持ちを伺っている。ケアプランは介護記録簿に記載し、毎日経過を記録している。	介護計画作成時は、家族に意見書を送付し、意向を把握している。家族、利用者の要望にあわせて、関係者が全員で検討し、介護計画を作成している。現状に即さない場合は柔軟に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や心身状態は介護日誌、体調管理表に記録し情報を共有している。また、毎日ケアプランの目標がなされているか確認している。特記事項は、共通の連絡表に記入して迅速な情報把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員が、ご本人、ご家族の状況やニーズに合わせて対応、サービスを提供している。柔道整復師によるリハビリ、音楽療法などを行っている。今後も、多様なサービスができるように努めていきたい。		

岐阜県 グループホーム めくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(スーパー・お寺・公民館・病院等)を考へて、それを利用しながら生活ができるよう支援している。公民館活動や清掃活動にも利用者様と一緒に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を聞き、継続していただいている。体調変化の時はすぐ家族に連絡をとり、かかりつけ医に日常の様子を報告したりして連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。	個々に、これまでのかかりつけ医を継続している。協力医と、継続医とが連携を取り、適切な医療を支援している。継続医への受診は、原則家族対応であるが、往診の依頼には柔軟に応じてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調変化時は、「めくもりの家大野」に勤務する看護師に相談し、主治医と連携している。また、往診時には立ち会い健康管理を一緒に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを提供し、定期的に面会しご家族や担当看護師からお話を伺っている。退院時には病院側とミーティングを行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が重度化した場合はどうするか、ご本人とご家族の希望をなるべく早いうちに確認して。終末期には主治医、ご家族と密な連携をとり対応している。また、最期をどのように過ごしたいのか改めて、話し合いをしている。	重度化や終末期の方針について、契約時に利用者、家族に説明し、合意している。早い段階で医師と関係者が十分に話し合い、できる限り希望に沿った支援をしている。看取りの経験も多くある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のリスクを念頭に置き、すぐ対応できるように、年2回看護師の指導のもと研修を行うなどしている。緊急連絡表やマニュアルも傍に置き迅速な対応ができるようにしている。ヒヤリハット報告は毎月の全体会議で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の立ち会いで、年2回防災避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間を想定し、夜勤者全員参加としている。近所の方や区長、民生委員に参加していただくよう計画中である。	年に2回、消防署指導のもと、火災訓練を実施している。夜間想定を含め、初期消火、通報、避難誘導などを訓練し、問題点を検証して防災意識を高めている。近隣との連携について、運営推進会議等で検討中である。	ホームの立地条件から、水害・地震を想定した具体的な対策を、運営推進会議等で検討し、地域との協力体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員勉強会で「接遇」「プライバシーについて」を学んでいる。。また、外部研修にも積極的に参加している。利用者様の自室は自宅と一緒にだという認識で、プライバシーに気を配るように努めている。	年に2回、接遇をテーマに研修会を行っている。職員の言葉かけや態度が、利用者を傷つけていないか、常に職員間で話し合い、尊厳やプライバシーを確保している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や衣服、レクや行事の選択など、日常生活で自己決定していただくようにしている。自己表現ができない方は、表情や行動から読み取るよう努め、個人を尊重したケアに取り組んでいる。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9人の生活リズムに合わせて、職員が支援するように努めている。食事や寝起き、趣味などを本人のペースで行っていただけるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった好みの洋服を選択していただき、お化粧をしたり、帽子をかぶったりと、その方らしいおしゃれを支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に畑の野菜やフルーツなどを収穫していただき、食事を作っている。それによって会話が弾み、楽しみながら食事をしていただいている。また、個々に対応して別メニューも提供している。	ホームの畑で作った野菜が食卓に並び、旬の味覚を楽しんでいる。個々の好みに応じたバランスの良い食事づくりを、利用者と一緒にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や調理師が連携して、体調に合わせて献立を作っている。食事摂取量と水分量、排便等を記録し、健康管理に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人一人の口腔ケアを行っている。義歯の手入れを忘れないように、声をかけてケアを行っている。	

岐阜県 グループホーム めくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が保てられるように、トイレ誘導を行ったり排泄パターンを記録している。夜間、歩行が不安定な方にはポータブルを使用させていただき自立支援を行っている。	排泄パターンを把握し、自立に向けたトイレ誘導を行っている。ほぼ全員が、リハビリパンツを着用し、自立を保っている。安全面に不安な人は、夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をつけ確認し、便秘の時は水分と野菜を多く摂取し、運動も心がけ、改善されない場合は主治医より薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が決まっているが、入れない場合は別の日に入っていたり、一人一人の話を聞き、要望(髪の毛の洗い方、その他)にお答えし、気持ち良く入浴していただけるよう心掛けている。冷えがひどい方には、足浴を行ったり、寝たきりの方には、こまめに清拭をしている。	週に2回、午前中の中の入浴であるが、利用者の希望の時間に入浴することができ、リラックスして入浴を楽しんでいる。状態に応じ、足浴や清拭を行い、重度者対応の入浴設備も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切に、一人で過ごしたい時は自室にお茶をお出し、お話を聞きゆっくりしていただいている。安心していただけるように、寝具の確認や夜勤者のあいさつを一緒に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的や用法用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。往診時に薬による症状の変化を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を考慮し、習慣付いた仕事(洗濯たたみ、庭作り、買い物の手伝い、食事の準備等)をしていただいている。気分転換に散歩や喫茶店へ行き、楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣りの園庭の散歩をしたり、近所の小道を歩いたり、ご家族と共に気軽に買い物へ出かけられたり、外食をされたり、自由な外出を支援している。	広い園庭や近隣を日常的に散歩している。隣接の接骨院や近くの店へ買い物で外出している。身体的に困難な人は、日光浴を楽しんでいる。年間行事で温泉や花見など、家族の協力を得ながら出かけている。	

岐阜県 グループホーム めくもりの家 島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は自己で管理していただいている。ほとんどの方は小口資金としてお預かりし、希望の物があれば一緒に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられたり、ハガキや手紙も自由にやり取りされている。また、郵送をお手伝いしている。年末には年賀状を一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の間は季節感のある置物や植物を置き、利用者様が心地よく過ごしていただけるよう工夫している。なるべく自然の素材や照明を間接的に使用したりして、くつろいでいただけるように支援している。自室には、なじみの家具や置物などご自分好みの部屋を家族と一緒に作っている。	リビングや廊下は芸術作品が多く、季節の植物を飾っている。共有場所は余裕ある空間で解放感があり、ゆったり過ごすことができる。玄関の置物などは、家庭的なものを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファやダイニングセット、座りやすいイスを用意し、一人一人落ち着きやすい場所で過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や置物を持って来ていただき、一緒に居室作りをしている。必要な物(ベッド、タンス、テーブルセット、ソファ)は用意させていただき、ご自由に使用していただいている。	やぐらコタツ、仏壇、植物等を家族と共に配置を工夫し、落ち着ける居室になっている。特に居室内に、トイレ・洗面台が設置してあり、使いやすく安心な生活環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、浴室、トイレ、廊下など手すりが整備され、一人一人安全な生活が送れるようにしている。また、エレベーターを設置している。		